

# カトリック六甲教会 教会報



「あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる」（ヨハネ 21 章 18 節）。

主任司祭 加藤信也, S. J.



六甲教会に赴任する前の数年間、私は東京上石神井にあるイエズス会ロヨラハウスの館長として過ごしました。高齢者や病気を抱えた会員たちの介護の現場という、それまで経験したことのない職場でしたが、修道会は雲の上や社会の外にあるのではなく、現代日本が抱える問題の只中にあることを実感させられた毎日でもありました。

ロヨラハウスの竣工は 1986 年、当時はイエズス会の中にも贅沢を理由に建設に反対する会員が多かったようですが、粟本管区長は管区の将来を見据えながら、他の修道会に先駆けてこの家の建設を決定しました。今では 15 人ほどがここで生活しています。

イエズス会の人事異動は、管区長の派遣の手紙によって行われます。自らの望みや希望を長上に伝えることはできても、手紙が届けばそれに従うのが従順というもの。しかし、おそらくほとんどの会員が「ロヨラハウスへ」と書かれた手紙を受け取ることに抵抗感を感じてきたことでしょう。それは、この家に移ることが司祭職からの引退であり、自らの召し出しの終わりであると感じてしまうからなのかもしれません。

司祭叙階ミサの閉祭には「行け 地のはてまで」と歌われます（典礼聖歌 408）。この歌に心を奮い立たせ、背中を押されるようにして、新司祭は福音宣教に出かける決意をしてきたことでしょう。しかしいつの日か、多くの会員が、「あなたの仕事はここまで。後は、あなたに続く人々に任せなさい」と呼びかけられる日を迎えます。

管区長のロヨラハウスへの派遣の手紙には、新しい使命として “Praying for the Church and the Society”（教会とイエズス会のために祈る）とも書かれています。

それまでの不自由な生活とは異なり、行き届いた介護に満足して、「これでいい、神はよいものを私のために準備して下さった」と気づく日もそう遠くはないでしょう。



## レオ 14 世 「8 月 22 日、平和のための断食と祈りを」



教皇レオ 14 世 [写真 は 2025 年 8 月 20 日の一般謁見；於バチカン・パウロ 6 世ホール (@Vatican Media) ] は、典礼暦で「天の元后聖母マリア」を記念する 8 月 22 日を、平和のための断食と祈りの日とするよう、すべての信者に呼びかけられました。そして、「マリアはこの世を生きる信者たちの母であり、『平和の元后』としても、よりのまわっている」と話されました。

世界は今、聖地や、ウクライナ、そして他の多くの地域で傷つけられ続けていると指摘、「断食と祈りの日」としてこの日を過ごすよう、すべての信者を招かれました。

主がわたしたちに平和と正義を授けてくださるよう、また、現在も続く武力紛争に苦悩する人々の涙を主が拭い去ってくださるよう祈り求めようと呼びかけられました。

(バチカンニュースより引用)

### 《平和月間イベント》 講演会「ガザとシリアの今から世界の今後を考える」



今年の平和月間（カトリック大阪高松教区）の 8 月 9 日（土）、ジャーナリストの西谷文和氏を講師に迎え、「ガザとシリアの今から世界の今後を考える」をテーマに、これら国・地域以外も取り上げられ、六甲教会主聖堂で講演会が行われました（宣教・養成部主催）。

西谷氏は 1960 年生まれ。大学卒業後は市役所に勤務、2004 年からはフリージャーナリストとして、アフガニスタン、ウクライナ、パレスチナ、シリアなど紛争地を現地取材し、映像も交えて広く伝えていきます。講演会には、信徒以外の方も多数参加され、中には福岡からこの

講演を聞くためだけに来たという女性もいました。

紛争地にも人々の日々の暮らしがあり、祈りがあります。ガザでは若者の自爆テロを恐れる当局からモスクへの立入りが規制され、モスクへの門を入りたい若者ともみ合いになる場面も紹介されました。アフガニスタンで 25 キロにわたる水路を作った中村 哲医師は、その死後も人々の尊敬を集めており、町の薬局やスーパーで、店の名前は「ナカムラ」だと誇らしげに話す店主の言葉も聞かれました。紛争地で戦禍に巻き込まれて手足を失った子供たち、ペンシル型爆弾により顎と手指を吹き飛ばされた子供にもカメラは向けられました。幸いにも彼らは欧米諸国や、ドイツの赤新月社で治療を受けられたとのことです。

今回紹介された映像や、現地での交流とその報告は非常に貴重なものですが、「なぜ戦争が始まったのか」「なぜ続くのか」「その結果どうなっていくのか」についても言及されました。宗教や領土問題だけでなく、間接的に戦争に加担、つまり武器やミサイル類を作る企業に投資することで莫大な利益を得る、世界でもほんの一握りの人々がいることが指摘されました。また、フェイクニュースを流すことで戦争賛同者を増やすやり方、YouTube 発信で儲かる仕組みの中で相手への憎しみを煽る様子もカメラはとらえます。さらにウクライナとロシアの戦争は最初の 1 年間で 1 億 2000 万トンもの温室効果ガスを排出したといわれています。これはシンガポールやスイスなど複数の国を合わせた国家レベルでの排出量を超えるものでした。戦争こそが地球温暖化を引き起こしていることを世界はもっと知るべきだと語気を強められました。

最後に挨拶に立った加藤信也主任司祭から「世界は悪い人によって滅びるのではない。見て見ぬふりをする人々によって滅ぼされるのだ」。このことばを胸に刻みたいと思いました。（大上 尚子）

・西谷氏のネット配信：「路上のラジオ」 (<https://www.radiostreet.net/>)

## 教会学校便り ■■■夏のキャンプは姫路仁豊野淳心の家で

教会学校は、8月11日から13日まで、姫路仁豊野淳心の家でキャンプに行ってきました。

今年のテーマは、「WA」です。平和の和、なごみの和、和解の和、和気あいあいの和、手と手をつなぐ輪、イエスさまと食卓を囲む輪・・・すべてをひっくるめた「WA」です。

キャンプ準備会では「WA」から連想する言葉を書き出して意味を考え、皆でキャンプの“十戒”を作りました。

友達を大切にすべし。失敗をわらうべからず。  
ご飯を作ってくれた人に感謝すべし。いっぱい遊んでよく寝るべし。相手の気持ちを考えるべし。  
みんなで助け合うべし。——等々を掲げてキャンプに臨みました。夕食は、テーマに沿った貿易ゲームを行い、各班ごとに食材を獲得して作りました。



雨がよく降ったキャンプでしたが、水鉄砲合戦やプールなど、外でのプログラムも無事に行うことが出来ました。最後の日は雨もあがり外での自由遊びもでき、皆大満足のキャンプでした。

全体に雨の多いキャンプでしたが、晴天続きでしたら、猛暑で逆にプログラムがこなせなかったように思います。この天候も神さまにいただいた恵みなのだと感謝の気持ちでいっぱいです。

(写真:祭壇を皆で囲んで。後列中央に渡辺徹郎神父様) (吉村 千里)

## 《 ミニコンサート 聖母の被昇天に寄せて 》



8月15日(金)は聖母の被昇天の祝日。10時のミサ終了後、ミニコンサートが開かれました。この日の出演は「ナオミ&ハッシー」と橋岡尚美さんと重尚さんのカントリー・デュオ。お二人は三宮のホンキートンクという古くからのライブハウスなどで演奏を続けているミュージシャンです。ギターを抱えた尚美さんは六甲教会独唱奉仕者で、こどもミサなどで伴奏したり、またバザーや納涼の夕べなどでもご夫妻で歌ってこられています。この

日はマリア被昇天ミサ、また平和旬間の最後の日でもあるので、マリア賛歌や平和の祈りなどを歌われ、後半はアメリカのカントリーナンバーA Living Prayer(Ron Block)とMy Church(Maren Moriris)を演奏されました。いずれも愛と祈りを込めた歌詞で、一部ゴスペルに通じるものがあつたように思います。重尚さんの奏でるドブロギター



(写真)は、ボディに鍋の蓋のような金属板が貼ってあり、大きな共鳴音を出します。珍しい楽器ですが重厚な響きをお二人の歌に添えてくれました。最高潮に達したところでアンコール。アメイジング・グレイスでお開きとなりました。聴衆のお一人の女性は「とても元気が出た」と感慨深げにおっしゃっていました。

(詫 洋一)

## 防災委員会主催講演会のお知らせ ～命を守る月間に寄せて～

☞日時・会場：9月7日(日)10時ミサ後、イグナチオホールにて。

☞テーマと講師：「ともだちに話したくなる地球温暖化のリアル」小田琢也氏(小教区評議会壮年会)

・講演会后、AED取扱い説明会も併せて行います。教会では9月に設置予定です。

## 私の好きな聖書のことば



「だから、言うておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさに分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」

(ルカによる福音書 7章 47節)

「自己中心」で、今から思うと不健全な罪意識に落ち込んでいた私は、毎日「苦しく、悲しい」、「後悔することで胸が一杯」、「愛することもまらでできない」と感じていました。そのような時、このみことば、「この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさに分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない」と出会いました。

神様の側からの愛に気づき、悔い改め、「自分が中心」から「神様が中心」に方向転換できたことによって、自分の中に愛を再び確認することができました。そして神様への愛を少しずつでも深めていくことが、生活の中で一番の喜びであると気づき始めました。

これからも神様に愛を頂きながら歩んでいきたいと願っております。

ヨセフ張 許涇

## 社会活動部 今月の予定

- 9月 3日 (水) 10時 手芸の集い 第1、第2会議室 どなたでも参加できます。
- 9月 13日 (土) 10時半 炊き出し 小野浜グラウンド (中央区小野浜町3)  
一緒に車で行かれる方は 六甲教会に10時集合です。  
教会事務所に事前にご連絡下さい。
- 9月 22日 (月) 9時半 ともしび会 教会台所  
(児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り)



## 肌着寄贈のお礼

・カトリック社会活動神戸センターから・・・・・・・・・・  
野宿者と生活困窮者のために夏の肌着を寄付して下さいました皆様  
に感謝をお伝えください、とのことでした。この夏は大変暑い  
ので、とても重宝しているとのこと。ありがとうございました。  
(社会活動部)

## 能登半島地震被災者支援 チャリティーライブ2025

～Music Road Live vol.3～

- ・ギターからパーカッション、フルート、ウクレレ、サックスの演奏が楽しめます。
- ◇日時 2025年9月27日(土) 開場 13:00 開演 13:30
- ◇場所 カトリック神戸中央教会 (車でのご来場はご遠慮ください)
- ◇入場無料 全席自由 ●支援募金にご協力ください

(お問い合わせ musicroadlive@gmail.com )

◇後援:カトリック社会活動神戸センター 神戸地区社会活動委員会

# 11月9日バザーでの個人出店者募集

2025年度のバザーでは、昨年同様、個人またはグループでの小さなお店の参加者を募集します。手作りお菓子やアクセサリ、手工芸品、雑貨など、皆さまの特技、家に眠る自慢の作品やお宝を、ご自分で出店し、売り上げは材料費を除いて教会または個人及びグループの支援団体へご寄付ください。飲食に関する出店や、ワークショップ（木工やアクセサリ作り等 30分程度で完結するもの）なども歓迎します。

出店スタッフは教会内外を問いません。但し、教会からの連絡等もあり、責任者は六甲教会信徒の方がお引き受けください。バザー企画グループからの連絡がありますので、メールアドレスをお持ちの方に限らせていただきます。また10月19日に行われますバザー委員会（11:30～）にご出席いただき、出店についての説明をお聞きください。

応募は出店申込書に必要事項を書き入れ、教会受付に提出ください。締め切りは9月末日です。

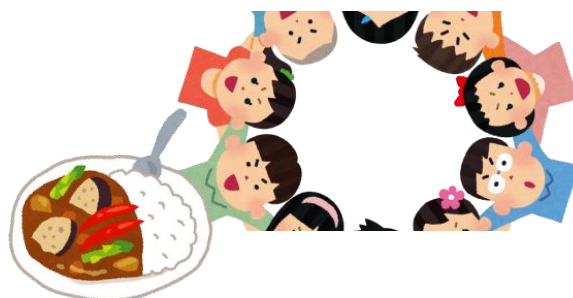
不明な点がありましたら、バザー企画グループ・荏原（i-ebara@kcc.zaq.ne.jp）または藤井（090-8367-4988）までお気軽にお問い合わせください。

同時に、地区役員を中心に用意する飲食コーナーのスタッフや、バザー全体の準備を行うスタッフを募集します。出店はできないけれども教会活動に協力したいと思われる方の応募をお待ちしています。教会受付にあります「個人ヘルパー申込書」に氏名・連絡先・参加時間帯を記入の上、ご提出ください。

新しい形での教会行事となります。皆様のご協力を得て、作り上げていきたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

2025年度バザー企画グループ

荏原いずみ・井川直哉・小田琢也・藤井敦子



写真は2024年のバザー風景。オニヤンマくんづくり(右上)や、物品販売でにぎわうイグナチオホール(左下)。

## ◇◇◇ 壮年会・婦人会主催 教会遠足 ◇◇◇

恒例の教会遠足を行います。皆様と楽しいひと時を過ごしたいと存じます。  
聖年の巡礼指定教会である岡山教会（ディエゴ喜斎記念聖堂）を訪ねます。

日時 2025年10月18日（土曜日）集合8時20分

行程 カトリック六甲教会 8:30 出発＝＝＝岡山教会でのミサ・交流＝＝＝  
＝＝昼食（後樂園 四季彩）＝＝＝後樂園・岡山城（自由行動）＝  
＝＝カトリック六甲教会 17:30 解散（予定）

参加費 11,000円（六甲教会信徒）／12,500円（六甲教会信徒以外）

締切 9月末日

壮年会 小田 琢也・婦人会 藤井 敦子

### 遠足ミニ知識

#### 郷土の聖人/聖ディエゴ喜斎…日本二十六聖人の最年長者

豊臣秀吉のキリシタン弾圧に於いて、1597年に都（京都）・大阪で逮捕され都（京都）から長崎まで約1か月かけて歩き、2月5日長崎の西坂で26名が殉教しました。喜斎の生地は備前藩芳賀村（現在の岡山市北区芳賀）と言われています。当時この地域（備前）は宇喜多秀家が藩主として治めており、多くの家来や家族がキリシタンであったとのこと。喜斎は温和で謙遜な人柄で、堺の商家に奉公し、のちに教会の受付をしていたと伝えられています。

列聖100年（1962年）を前に、1958年に地元芳賀の市川数太氏らがかなり昔から天主岩と呼ばれていた岩の上に記念碑を建立し、喜斎の墓として祀っていました。その後殉教400年を記念し、1996年秋に付近を整備『聖ディエゴ喜斎記念公園』としました。毎年5月に芳賀巡礼として、岡山教会から現地まで徒歩巡礼を行い、野外ミサを捧げています。

なお、岡山教会では2001年の新聖堂献堂を機に教会の保護聖人と定め、聖堂名を『聖ディエゴ喜斎記念聖堂』と名付けました。

（岡山教会ホームページより許可を得て転載）



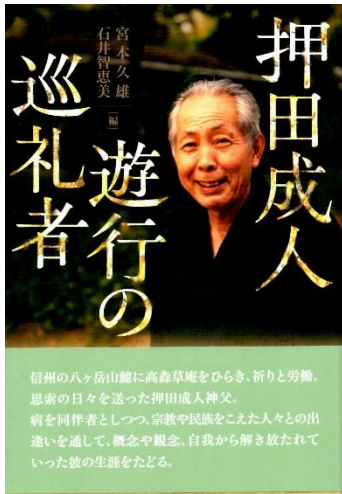
26 聖人の右から 5 番目が聖ディエゴ喜斎（日本名：市川喜佐衛門。別称：ヤコボ喜斎、イエズス会士）。最年長の 64 歳での殉教となった。（長崎の日本二十六聖人記念館で撮影。六甲教会信徒のご提供による）

『押田成人 遊行の巡礼者』

編者：宮本久雄・石井智恵美

(B5 変形判/176 頁/発行：日本キリスト教団出版局/2024 年刊)

故押田成人神父様(ドミニコ会士)は、日本国内よりむしろ海外で高名だったのではないのでしょうか。世界的に環境問題を提起しておられた神父様が命を狙われ、身を隠すように各地を旅しておられた頃、わたしは初めて出会いました。目の前の神父様は「あたたかく素朴な人柄、親切、ユーモア、子どもの



ような無邪気さ・・・」と本文にある通り、軽やかな光に包まれてご自身の半生や教えを語ってくださいました。それ以来、自然界や「食」の大切さ、土に触れることの恵み、朗らかに楽しく生きること、また社会の罪とわたしたち一人ひとりの自我の驕り昂ぶり、自我との闘い方、「遠いまなざし」で物事を観ることなど、貴重な教えを受けました。

神父様は“地下流、と言われる深い霊性を生きておられたからこそ、神さまの望みに合わない被造界の破壊に気づき、それに立ち向かうための裁判や講演などにも尽力されておられたのです。わたしは神父様の生き様から「本物の祈り手は、この世の歪みに立ち向かう」ということも学びました。この本には押田神父様の生涯と活動と霊性がまとめて紹介されています。

「今、霊に生きる人々は、祈りと生活の中で、みな一つになって悪と戦わなければならないのです。」  
 「…誰もが善も悪も自分のなかに持っている。まずは、現代文明を糾弾する前に、現代文明がはらむ驕りや昂ぶりを知らずしらず持っている、自分自身が回心しなければならない。」 (本文より)

(紹介：こいずみ ゆり)



8月の教会の庭

左：タカサゴユリ(ユリ科) 台湾原産のこのユリは、台湾の古称である「高砂」からそう呼ばれています。タカサゴユリは種でも増えるので、高速道路の法面などに群生していたりします。風に乗って旅をし、六甲教会の北側道路沿いのオタフク南天の中に着地して、咲いています。厳しい暑さにも負けず教会を美しく飾ってくれています。

撮影日 2025.8.7

右：コリウス(シソ科) 葉の色のカラーバリエーションが豊富です。花壇の花々と共に元気に成長し、華やかに彩ってくれています。教会の花壇には6株植わっていて10月頃まで楽しむことができます。

撮影日 2025.8.21

(園芸係)



●●● 教会報をつくる ●●●

毎月の教会報発行日にお手伝いくださる皆様に感謝しています。教会報は従来からすべて「家内制手工業」。組版はパソコン画面でワードを駆使して行い、印刷は教会の複合コピー機、そして紙折り機にかけるとあっと言う間に二つ折りに。そこから折り込みなど最後の仕上げは皆さんによる丁寧な手作業です。さあ、できあがり!

【2025年9月行事予定表】


日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	すべてのいのちを守るための月間（～10/4）				初金ミサ 7:00 10:00 ◎灘西・中央	教会学校始業式
7	8	9	10	11	12	13
年間第23主日 手話付きミサ 10:00 10時ミサ後防災委員会主催講演会	聖母マリアの誕生 被造物を大切に する世界祈願日		福者セバスチャン木村司祭と204殉教者		◎東灘北1	社会活動部 炊き出し
14	15	16	17	18	19	20
十字架称賛 祖父母と高齢者のための世界祈願日 小教区評議会 11:15	三日月会例会（敬老の日） 11:00	教会事務室 休み （15日の代休）			◎東灘北2・芦屋	
21	22	23	24	25	26	27
年間第25主日 地区役員会 11:30		教会事務室 休み （秋分の日）			◎定期清掃	
28	29	30				
年間第26主日 世界難民移住移動者の日（献金） 子どもとともに捧げるミサ 社会活動部連絡会 10時ミサ後	聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル 大天使					

◎印は掃除当番地区（午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止）

【編集後記】

- ◇今年からウインブルドン（テニス）に線審の姿が消えました。すべて電子機器がジャッジします。厳しい勝負の世界なので、誤審は許されないとはいえ、少し寂しいような気もします。
- ◇AIがどこまで進化するか、楽しみでもあり、恐ろしくもあります。総務省が自治体にAI指針を出すなど、国家レベルでの本格的推進も。そういえば、もう当たり前のように、“ここからはAIが自動音声でニュースをお伝えします…”（NHK）とか。（N.O.）

ver1.2

<p>次回10月号の印刷・発行は9月27日（土）の10時半からです。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参いただくか、FAX、メールでお願いします。</p> <p>（・）。皆さまからのご寄稿をお待ちしています。</p> <p>・教会ホームページ（右のQRコード）をご登録ください。教会の行事のほか、「メニュー」のリンク集からはバチカン・ニュースも御覧になれます。登録のお手伝いをします。お声がけください。</p> <p>毎月の教会報はホームページではカラーでご覧になれます。</p>	<p><b>カトリック六甲教会</b></p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p>電話 078-851-2846</p> <p>FAX 078-851-9023</p> <p><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p> <p>発行責任者 加藤 信也 編集 広 報 部</p> 
--	---